

島根県パワーリフティング協会

これまでのあゆみ

パワーリフティング競技は、ウェイトトレーニングで高重量を扱うスクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目を競技化したものである。

島根県内のウェイトトレーニングの愛好者が集まり、昭和63年6月18日に設立総会を行い、会長に岩本久人氏、理事長に木谷健一氏が就任して、島根県パワーリフティング協会が発足した。

パワーリフティングの認知、普及活動を行い、平成6年に第1回島根県ベンチプレス大会を松江市のショッピングプラザの催場で開催した。

平成8年5月には、島根県体育協会の理事会で加盟への承認がなされた。競技人口の順調な増加とともに競技力の向上が見られ、平成10年に全日本ベンチプレス大会を出雲市に誘致、2日間にわたり開催した。

平成11年の世界マスターズ大会に島根県から初の選手として松浦洋子選手が女子60kg級に参加。結果は11位と振るわなかったが、3年後には52kg級に階級を下げて優勝した。

平成13年の世界マスターズベンチプレス大会に山下豊選手が男子56kg級で優勝、花田祥之選手が男子100kg級で3位に入った。山下選手は、翌年も52kg級に階級を下げて優勝した。

平成14年の世界サブジュニア大会(14歳~18歳)では、松浦恵子選手が中学生ながら女子52kg級で4位に入賞した。平成30年のアジア大会では、男子66kg級に参加の川島督司選手が優勝。デッドリフトで253.5kgのアジア新記録を樹立した。

国際大会には参加しなかったが、土谷智則選手が平成25年にジャパクラシックマスターズ大会男子74kg級で、平成28年と平成29年に83kg級で、3度の優勝を果たした。



松浦洋子選手のスクワット

現在の状況

一時期減少していた競技人口が、トレーニングジムの普及によって筋力トレーニングの愛好者の増加が見られ、島根県内の大会は出場者が40人を数えるまでに回復してきた。

島根県内の競技会として、3月にベンチプレス大会とパワーリフティング大会、7月にベンチプレス大会とデッドリフト大会を定期的に開催している。

令和4年に全日本教職員大会で山崎裕子選手が女子63kg級で優勝。翌年にジャパクラシックマスターズ大会で3位、3か月後には全日本教職員大会に大会新記録で2年連続優勝した。また、この年度のジャパクラシック大会で嘉本絵美選手が女子84kg超級で3位に入った。

さらに、出雲市には公認の器材を常設したパワーリフティング専用のジムがあり、選手強化を図っている。

これから

2030年に島根かみあり国スポが開催されるが、パワーリフティング競技は公開競技での参加になる。

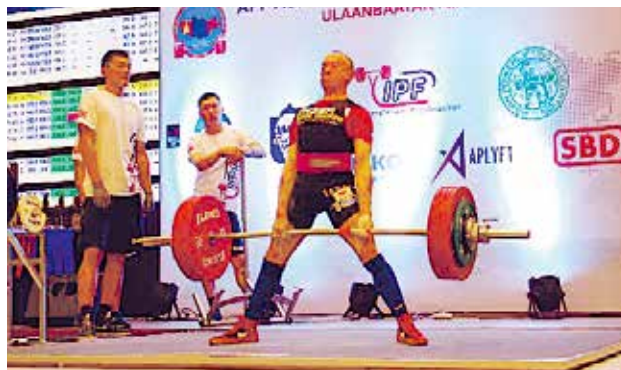
これまでに島根県からも入賞を果たしており、公式競技になれば、得点獲得の競技として期待できる種目になると思う。日本パワーリフティング協会も、公式競技としての参入に向けて動き掛けを行っているところなので、島根県パワーリフティング協会もさらなる競技力向上のために努力していく所存である。



山下豊選手のベンチプレス



花田祥之選手のベンチプレス



川島督司選手のデッドリフト